

**職域肝炎ウイルス検査促進と陽性者のフォローアップの実態調査
（協会けんぽ山口支部での取り組み）**

研究分担者：日高 勲 山口大学医学部附属病院 肝疾患センター
研究協力者：真島 邦明 全国健康保険協会 山口支部

研究要旨：自治体では肝炎ウイルス検診受検啓発の取り組みにより、肝炎ウイルス検査の受検率は増加しつつあるが、職域における肝炎ウイルス検査が進んでいない現状がある。約 3000 万人が加入する我が国最大の保険者である協会けんぽでは、612 円の自己負担（協会けんぽが約 1400 円を負担）で肝炎ウイルス検査を受診可能なオプションを有するも、その受検率は年 1%程度であった。福岡支部における先行研究では、簡易リーフレットを用いた個別勧奨のよる効果が示されており、協会けんぽ山口支部における簡易リーフレットを用いた検査数増加の効果検証を行った。山口支部でも、肝炎ウイルス検査の受検数は前年比約 3 倍に増加し、有効性が示された。また、保健師による陽性者のその後の受診確認の実態調査を行ったところ、陽性者の多くが、検査後医療機関を受診していることも確認された。

A. 研究目的

わが国には約 350 万人の肝炎ウイルスキャリア（B 型肝炎、C 型肝炎）がいると推定され（厚生労働省）ウイルス肝炎は国民病であると記述されている（肝炎対策基本法前文）。B 型慢性肝炎・肝硬変では抗ウイルス薬の内服を行うことにより肝発癌が抑制される。C 型肝炎においては経口抗ウイルス薬の登場により、ウイルス排除率は飛躍的に上昇し、ウイルス排除により肝発癌が抑制される。そのため、専門医による適正な診断・治療が望まれている。平成 14 年度から行われた老人保健法（現在健康増進法）で主に国民保険加入者を対象者として開始された市町村主体の肝炎ウイルス検査受検率は約 20%に留まり、未だに約 77 万人が未受検、更に約 53～120 万人が陽性と知りながら受診していないと推測されている。自治体における肝炎ウイルス検査受検啓発が盛んにおこなわれており、山口県においても、県が実施している緊急肝炎ウイルス検査事業および保健所無料肝炎検査（肝炎ウイルス無料検査）と市町村で実施している健康増進事業による肝炎ウイルス検査の受

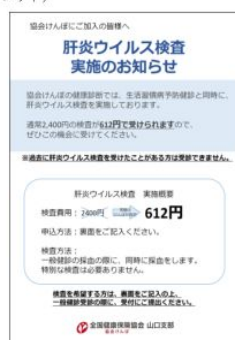
検率、総受検者数は増加を認めている。一方で、全国健康保険協会（協会けんぽ）や健保組合の職域における肝炎ウイルス検査が進んでいない現状がある。約 3000 万人が加入する我が国最大の保険者である協会けんぽでは、612 円の自己負担（協会けんぽが約 1430 円を負担）で肝炎ウイルス検査を受診可能なオプションを有するも、その受検率は年 1%程度であった。本研究班における先行研究（協会けんぽ福岡支部）では、受検申込書の文字数が多い事に着目し、簡易リーフレットを作成したところ、受検率は約 10 倍に増加を認め、有意に上昇、簡易リーフレットを用いた個別勧奨のよる効果が確認されている。

本研究ではその有用性を全国展開すべく、協会けんぽ山口支部で同様の受検勧奨による効果検証を行うこととした。さらに陽性者のその後の受診状況についても実態把握を行い、適切な受診につながらないという問題点を抽出することとした。

B. 研究方法

支部内全 55 健診医療機関に、個人に郵送する健診案内に研究班作成の簡易リーフレット 兼受検申込書（2040 円の検査費用が 612 円で受検できることを強調、図 1）を同封し、受検数（率）、陽性者（率）数の増加に有無を検証した。さらに陽性者の医療機関受診の有無をレセプト情報より解析した。

図 1 協会けんぽ山口支部 肝炎ウイルス検査実施のお知らせ
（2018 年版リーフレット）



C. 研究結果

各健診医療機関より、生活習慣病予防検診（被保険者対象）を受検する者を対象に、全員に健診案内時に簡易リーフレットを個別に配布したところ、2018 年 4 月から 12 月の集計で、受検数は前年度比 3.2 倍（2017 年 878 件 → 2018 年 2793 件）に上昇した（図 2）。

2018 年 4 月から 9 月の間に 18 名の陽性者（HBV9 名、HCV9 名）が確認され、山口支部の保健師が陽性結果 3 ヶ月後にレセプト病名、超音波検査、HBV-DNA、HCV-RNA 検査等による受診の有無を判定したところ 73.3%（調査対象 15 名中 11 名）が受診していた。

図 2 肝炎ウイルス検査実施数の推移

	4～12月	年間
2015年		1743件
2016年		789件
2017年	878件	1087件
2018年	2793件	

陽性者の受診状況（2018年4-9月）
検査数 2029件
陽性反応 18名（HBV9名、HCV9名）
→医療機関受診者数 11名
ただし以下のものは除く
・県外で健診受検（2名）
・支部外の加入者（1名）

D. 考察

従来検査申込書では、協会けんぽ山口支部における肝炎ウイルス検査の受検数は年間約 1000 件（受検率約 1 %程度）であったが、簡易リーフレットの配布に変更したところ、受検数は約 3 倍に増加し、リーフレットの効果有効性が確認された。

一方で、健診医療機関に個別に状況確認を行ったところ、多くの健診医療機関で実施数が増加している一方で、過去に検査実施歴がない機関で、2018 年度も実施 0 件の機関が 11 機関あることが判明し、健診医療機関の取り組みに対する理解度に影響される可能性が示唆された。また、検診車による健診など、健診実施形態による差異も影響する可能性があり、取り組みに対する健診医療機関の理解度の向上と、個々の健診形態に合わせた推進方法も検討することが更なる検査数増加には必要と考えた。

協会けんぽは保険者でもあるため、医療機関受診者のレセプトが確認できる。そのため、肝炎ウイルス検査陽性者のその後の受診状況の把握が可能である。保健師による調査の結果、山口支部での陽性者の多くは検査後、医療機関を受診していることが判明した。

本研究の事前の打ち合わせがきっかけで、協会けんぽ山口支部に所属するすべての保健師が 2018 年に山口県の肝炎医療コーディネーターとなった。肝炎に対する更なる理解度が増すことで、受診勧奨の必要性への

理解も高まっており、今後、肝炎医療コーディネーターである協会けんぽ保健師による受診勧奨を推進していきたい。

E. 結論

協会けんぽでは、612円で肝炎ウイルス検査可能であったが、その受検率は低率であった。簡易リーフレット用いて受検勧奨することにより、検査数の増加を認めており、職域肝炎検査促進に、簡便かつ有用な取り組みであることが判明した

更にレセプトを使用することで、検査陽性者のうち、医療機関未受診者のみに受診勧奨可能となり、効率的に専門医への受診に結び付けられる可能性がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 発表論文

なし

2. 学会発表

日高 勲、坂井田 功「肝炎検査受検啓発、受診勧奨の取り組みと効果検証」第22回日本肝臓学会大会ワークショップ16「HCV感染の根絶を目指すC型肝炎診療の現状と展望」
肝臓 59 suppl(2), A644. 2018

3. その他

啓発資料

* 簡易型受検リーフレット・申込書
(協会けんぽ山口支部2018年版)(別添え)

啓発活動

* 日高 勲：基調講演「B型肝炎、C型肝炎、NASHについて」

平成30年度第2回協会けんぽ山口支部保険指導者研修会 平成30年7月17日 主催：全国健康保険協会山口支部

* 日高 勲：講演「肝炎医療コーディネーターとは」

平成30年度山口県肝疾患コーディネーター養成講習会 平成30年9月2日主催山口県

* 日高 勲：講演「肝炎医療コーディネーターの役割～山口県肝疾患コーディネーターの活動紹介～」

平成30年度鹿児島県肝炎医療コーディネーター養成講習会 平成30年10月28日

主催：鹿児島県、鹿児島大学病院

* 日高 勲：講演「山口県におけるHCV撲滅に向けた取り組み」

HCV Elimination Project Kick-off Meeting 平成31年2月21日 主催：肝炎ウイルス研究財団、開催地：神奈川

* 日高 勲：講演「肝炎医療コーディネーターとは～山口県肝疾患コーディネーターの取り組み～」

北海道肝炎医療コーディネーター研修会 平成31年3月17日

主催：北海道、北海道大学病院

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし